

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Impact of timing of adjuvant chemotherapy initiation and completion after surgery on racial disparities in survival among women with breast cancer.
著者名	Nurgalieva ZZ, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Med Oncol 30: 419.
目的	人種によって術後補助化学療法を開始時期、補助化学療法の完遂率に差があるか検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	米国 National Cancer Institute (NCI)と Center for Medicare and Medicaid Services (CMS)による大規模なデータベースに登録された65歳以上のstage I-III乳癌患者で、診断から12カ月以内に化学療法が行われた患者。
サンプルサイズ	14,380
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	OS
結果	術後<1カ月に化学療法を開始された患者群をreferenceとして、術後<2カ月、<3カ月、≥3カ月に開始された患者群と比較したところ、≥3カ月で有意に予後が劣っていた: HR 1.53 (95% CI, 1.32-1.80)。
結論	化学療法を早期に開始できなかった要因が交絡因子になっている可能性はあるが、術後化学療法の遅延は避けるべきである。
コメント	【3】と一貫した結果である。臨床試験に参加した患者を対象としている訳ではないため患者背景が多様であると予想されるが、大規模なデータベースを基にしており、術後>3カ月の化学療法開始が予後に悪影響を及ぼしうることを示した重要なデータと考える。65歳以上の閉経後患者を対象としていることから、妊よう性維持を望む閉経前の患者に適用可能かは不明である。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Does time interval between surgery and adjuvant chemotherapy initiation modify treatment efficacy in operable, breast cancer patients? French Adjuvant Study Group (FASG) Results.
著者名	Kerbrat P, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	J Clin Oncol 2005; 23: 660.
目的	手術から化学療法開始までの期間が予後に及ぼす効果を検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	3b
対象患者（疾患/病態）	French Adjuvant Study Group (FASG)の臨床試験に参加した手術可能な乳癌患者のうち術後化学療法を受けた患者
サンプルサイズ	2,602
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	DFS
結果	術後<28日に化学療法を開始された患者群を reference として、術後≥28日に開始された患者群と比較したところ、後者で予後が劣っている傾向にあったが統計学的有意差に至らなかった: HR 0.85 (95% CI, 0.65-1.05)。
結論	術後≥28日の化学療法開始遅延は予後に悪影響を及ぼす可能性がある
コメント	どの時期まで化学療法開始を遅らすことが許容されるかを問うた研究ではない。アブストラクトフォームであり、多変量解析に付された因子など明らかにされていない。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Treatment delay in breast cancer; does it really have an impact on prognosis?
著者名	Samur M, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Turk J Canc 2002; 32: 138-147.
目的	手術から化学療法開始までの期間が予後に及ぼす効果を検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	Akdeniz University（単施設）で術後補助化学療法を受けた乳癌患者
サンプルサイズ	94
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	RFS (recurrence free survival)
結果	術後<35日に化学療法を開始された患者群をreferenceとして、術後≥35日に開始された患者群と比較したところ、予後に有意差なし；HR 1.51 (p=445)。
結論	術後≥35日の遅延が化学療法を省略する根拠とはならない
コメント	単変量解析のみであること、単施設の小規模な研究であることから、重要度は低い。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Does timing of adjuvant chemotherapy for early breast cancer influence survival?
著者名	Shannon C, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	J Clin Oncol 2003; 21: 3792-3797.
目的	手術から化学療法開始までの期間が予後に及ぼす効果を検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	Royal Marsden Hospital（単施設）で術後補助化学療法を受けた早期乳癌患者
サンプルサイズ	1,161
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	DFS, OS
結果	術後<21日に化学療法を開始された患者群と術後≥21日に開始された患者群と比較したところ、予後に有意差なし
結論	術後極早期に補助化学療法を開始するメリットは見いだせず
コメント	どの時期まで化学療法開始を遅らすことが許容されるかを問うた研究ではない。2群間比較はlog-rank testで行われており、有意差なしとされているが、HRは提供されていない。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Influence of timing of initiation of adjuvant chemotherapy over survival in breast cancer: a negative outcome study by the Spanish Breast Cancer Research Group (GEICAM).
著者名	Jara Sanchez C, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Breast Cancer Res Treat 2007; 101: 215-223.
目的	手術から化学療法開始までの期間が予後に及ぼす効果を検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	術後補助化学療法を受けた Stage I-III 乳癌患者
サンプルサイズ	2,782
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	DFS, OS
結果	補助化学療法が術後 1-3 週、3-6 週、6-9 週、9 週<に開始された患者群間で、DFS および OS に有意差はなし
結論	解析された術後期間に関する限り予後への影響は見いだせず
コメント	9 週<の患者群が全体の 8.1%に過ぎず、どの時期まで化学療法開始を遅らすことが許容されるかを問う研究としては、信頼度は高くない。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Optimal timing of adjuvant treatment in patients with early breast cancer.
著者名	Alkis N, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Med Oncol 28: 1255-1259.
目的	術後補助療法の至適な開始時期を探索する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	Ankara Oncology Research and Training Hospital（単施設）で術後補助化学療法を受けた乳癌患者
サンプルサイズ	402
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	OS
結果	術後≤44日に化学療法を開始された患者群に比べて、術後>44日に開始された患者群では有意に5年生存率が劣っていた
結論	術後化学療法は早期に開始すべきである
コメント	単施設の小規模な後方視的研究であり、術後>44日に開始された患者群が58/402（14.4%）であることから、重要度は高くない。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Effect of timing of initiation of adjuvant chemotherapy on disease-free survival in breast cancer.
著者名	Buzdar AU, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Breast Cancer Res Treat 1982; 2: 163-169.
目的	術後化学療法の開始遅延が予後に及ぼす影響を検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	術後補助化学療法として FAC 療法を受けた Stage II-III の乳癌患者
サンプルサイズ	460
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	DFS
結果	補助化学療法が術後<10 週、10-13 週、14-17 週、18 週≤に開始された患者群間で、DFS に有意差はなし
結論	術後化学療法の開始遅延は予後に影響を与えない
コメント	手術から化学療法までの期間が最も短い患者群を術後<10 週でくくっており、他の同様の研究と比べると長い。術後<4 週をスタンダードと考えた場合、「遅れてもよい」とするデータとしては弱い。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Impact of administration-related factors on outcome of adjuvant chemotherapy for primary breast cancer.
著者名	Pronzato P, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Am J Clin Oncol 1989; 12: 481-485.
目的	術後化学療法に関わる因子の予後への影響を探索する
研究デザイン	前向きコホート研究
エビデンスレベル	2b
対象患者（疾患/病態）	術後補助化学療法として CMF を受けた乳癌患者
サンプルサイズ	206
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	OS
結果	術後<35日に化学療法を開始された患者群を reference として、術後≥35日に開始された患者群と比較したところ、後者で有意に予後が劣っていた；2.61 (95% CI, 1.26-5.39)。
結論	術後化学療法の開始遅延が予後に悪影響を及ぼしうる
コメント	前向きコホート研究であり重要度が高い
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Association between delayed initiation of adjuvant CMF or anthracycline-based chemotherapy and survival in breast cancer: a systematic review and meta-analysis.
著者名	Yu KD, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	BMC Cancer 13: 240.
目的	手術から補助化学療法開始まで期間が予後に及ぼす影響を明らかにする
研究デザイン	主として症例対象研究のシステマティック・レビュー
エビデンスレベル	3a
対象患者（疾患/病態）	-
サンプルサイズ	34,097
介入	メタアナリシス
主要評価項目（エンドポイント）	OS, DFS
結果	手術から化学療法までの期間と、OS や DFS における HR とは、後者を対数化するとリニアな関係にあるという推定に基づいて解析された結果、4 週間の術後化学療法の遅延により、OS と DFS のイベントリスクがそれぞれ、1.15 (95% CI, 1.03-1.28)倍、1.16 (95% CI, 1.01-1.33)倍増加すると算出。
結論	手術後の化学療法開始遅延は予後に悪影響を及ぼす
コメント	解析の基となった推定自体の妥当性は明らかでない。HR が提供されていない多くの試験が含まれていない。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Comparisons between different polychemotherapy regimens for early breast cancer: meta-analyses of long-term outcome among 100,000 women in 123 randomised trials.
著者名	Early Breast Cancer Trialists' Collaborative Group (EBCTCG)
雑誌名、年；巻：ページ	Lancet 379: 432-444.
目的	早期乳癌に対する異なった併用化学療法が予後に及ぼす影響を明らかにする
研究デザイン	ランダム化比較試験のシステマティックレビュー
エビデンスレベル	1a
対象患者（疾患/病態）	
サンプルサイズ	100,000
介入	メタアナリシス
主要評価項目（エンドポイント）	
結果	併用化学療法により早期乳癌の予後が改善する
結論	併用化学療法により早期乳癌の予後が改善する
コメント	術後補助化学療法の予後への影響を示した重要な論文である
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Value of early referral to fertility preservation in young women with breast cancer.
著者名	Lee S. et al.
雑誌名、年；巻：ページ	J Clin Oncol 28: 4683-4686.
目的	術前に生殖医療専門家にコンサルトすることで術後化学療法の遅延を短縮できるか検討する
研究デザイン	症例対照研究
エビデンスレベル	3b
対象患者（疾患/病態）	乳癌の術後化学療法の前に、術後卵子保存または受精卵保存を受けた患者
サンプルサイズ	154
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	乳癌の診断から術後化学療法開始までの期間
結果	術前に生殖医療専門家にコンサルトした患者群（n=35）では、手術後にコンサルトした患者群（n=58）に比べて、乳癌の診断から術後化学療法開始までの期間が平均 24 日短かった
結論	術前に生殖医療専門家にコンサルトすることで、早期の化学療法開始が可能
コメント	米国からの報告で本邦で同様のことが言えるか不明であるが、早期に生殖医療専門家にコンサルトすべきことを示唆するデータである
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Does time interval between surgery and adjuvant chemotherapy initiation modify treatment efficacy in operable, breast cancer patients? French Adjuvant Study Group (FASG) Results.
著者名	Kerbrat P, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	J Clin Oncol 2005; 23: 660.
目的	手術から化学療法開始までの期間が予後に及ぼす効果を検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	3b
対象患者（疾患/病態）	French Adjuvant Study Group (FASG)の臨床試験に参加した手術可能な乳癌患者のうち術後化学療法を受けた患者
サンプルサイズ	2,602
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	DFS
結果	術後<28日に化学療法を開始された患者群を reference として、術後≥28日に開始された患者群と比較したところ、後者で予後が劣っている傾向にあったが統計学的有意差に至らなかった: HR 0.85 (95% CI, 0.65-1.05)。
結論	術後≥28日の化学療法開始遅延は予後に悪影響を及ぼす可能性がある
コメント	どの時期まで化学療法開始を遅らすことが許容されるかを問うた研究ではない。アブストラクトフォームであり、多変量解析に付された因子など明らかにされていない。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Treatment delay in breast cancer; does it really have an impact on prognosis?
著者名	Samur M, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Turk J Canc 2002; 32: 138-147.
目的	手術から化学療法開始までの期間が予後に及ぼす効果を検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	Akdeniz University（単施設）で術後補助化学療法を受けた乳癌患者
サンプルサイズ	94
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	RFS (recurrence free survival)
結果	術後<35日に化学療法を開始された患者群を reference として、術後≥35日に開始された患者群と比較したところ、予後に有意差なし; HR 1.51 (p=445)。
結論	術後≥35日の遅延が化学療法を省略する根拠とはならない
コメント	単変量解析のみであること、単施設の小規模な研究であることから、重要度は低い。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Does timing of adjuvant chemotherapy for early breast cancer influence survival?
著者名	Shannon C, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	J Clin Oncol 2003; 21: 3792-3797.
目的	手術から化学療法開始までの期間が予後に及ぼす効果を検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	Royal Marsden Hospital（単施設）で術後補助化学療法を受けた早期乳癌患者
サンプルサイズ	1,161
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	DFS, OS
結果	術後<21日に化学療法を開始された患者群と術後≥21日に開始された患者群と比較したところ、予後に有意差なし
結論	術後極早期に補助化学療法を開始するメリットは見いだせず
コメント	どの時期まで化学療法開始を遅らすことが許容されるかを問うた研究ではない。2群間比較はlog-rank testで行われており、有意差なしとされているが、HRは提供されていない。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Influence of timing of initiation of adjuvant chemotherapy over survival in breast cancer: a negative outcome study by the Spanish Breast Cancer Research Group (GEICAM).
著者名	Jara Sanchez C, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Breast Cancer Res Treat 2007; 101: 215-223.
目的	手術から化学療法開始までの期間が予後に及ぼす効果を検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	術後補助化学療法を受けた Stage I-III 乳癌患者
サンプルサイズ	2,782
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	DFS, OS
結果	補助化学療法が術後 1-3 週、3-6 週、6-9 週、9 週<に開始された患者群間で、DFS および OS に有意差はなし
結論	解析された術後期間に関する限り予後への影響は見いだせず
コメント	9 週<の患者群が全体の 8.1%に過ぎず、どの時期まで化学療法開始を遅らすことが許容されるかを問う研究としては、信頼度は高くない。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Optimal timing of adjuvant treatment in patients with early breast cancer.
著者名	Alkis N, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Med Oncol 28: 1255-1259.
目的	術後補助療法の至適な開始時期を探索する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	Ankara Oncology Research and Training Hospital（単施設）で術後補助化学療法を受けた乳癌患者
サンプルサイズ	402
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	OS
結果	術後≤44日に化学療法を開始された患者群に比べて、術後>44日に開始された患者群では有意に5年生存率が劣っていた
結論	術後化学療法は早期に開始すべきである
コメント	単施設の小規模な後方視的研究であり、術後>44日に開始された患者群が58/402（14.4%）であることから、重要度は高くない。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Effect of timing of initiation of adjuvant chemotherapy on disease-free survival in breast cancer.
著者名	Buzdar AU, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Breast Cancer Res Treat 1982; 2: 163-169.
目的	術後化学療法の開始遅延が予後に及ぼす影響を検討する
研究デザイン	症例対象研究（後方視的）
エビデンスレベル	4
対象患者（疾患/病態）	術後補助化学療法として FAC 療法を受けた Stage II-III の乳癌患者
サンプルサイズ	460
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	DFS
結果	補助化学療法が術後<10 週、10-13 週、14-17 週、18 週≤に開始された患者群間で、DFS に有意差はなし
結論	術後化学療法の開始遅延は予後に影響を与えない
コメント	手術から化学療法までの期間が最も短い患者群を術後<10 週でくくっており、他の同様の研究と比べると長い。術後<4 週をスタンダードと考えた場合、「遅れてもよい」とするデータとしては弱い。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Impact of administration-related factors on outcome of adjuvant chemotherapy for primary breast cancer.
著者名	Pronzato P, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	Am J Clin Oncol 1989; 12: 481-485.
目的	術後化学療法に関わる因子の予後への影響を探索する
研究デザイン	前向きコホート研究
エビデンスレベル	2b
対象患者（疾患/病態）	術後補助化学療法として CMF を受けた乳癌患者
サンプルサイズ	206
介入	なし
主要評価項目（エンドポイント）	OS
結果	術後<35日に化学療法を開始された患者群を reference として、術後≥35日に開始された患者群と比較したところ、後者で有意に予後が劣っていた；2.61 (95% CI, 1.26-5.39)。
結論	術後化学療法の開始遅延が予後に悪影響を及ぼしうる
コメント	前向きコホート研究であり重要度が高い
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム（各引用文献につき各1枚作成）

文献タイトル	Association between delayed initiation of adjuvant CMF or anthracycline-based chemotherapy and survival in breast cancer: a systematic review and meta-analysis.
著者名	Yu KD, et al.
雑誌名、年；巻：ページ	BMC Cancer 13: 240.
目的	手術から補助化学療法開始まで期間が予後に及ぼす影響を明らかにする
研究デザイン	主として症例対象研究のシステマティック・レビュー
エビデンスレベル	3a
対象患者（疾患/病態）	-
サンプルサイズ	34,097
介入	メタアナリシス
主要評価項目（エンドポイント）	OS, DFS
結果	手術から化学療法までの期間と、OS や DFS における HR とは、後者を対数化するとリニアな関係にあるという推定に基づいて解析された結果、4 週間の術後化学療法の遅延により、OS と DFS のイベントリスクがそれぞれ、1.15 (95% CI, 1.03-1.28)倍、1.16 (95% CI, 1.01-1.33)倍増加すると算出。
結論	手術後の化学療法開始遅延は予後に悪影響を及ぼす
コメント	解析の基となった推定自体の妥当性は明らかでない。HR を提供していない多くの試験がメタアナリシス含まれていない。
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹

アブストラクト・フォーム (各引用文献につき各1枚作成)

文献タイトル	Comparisons between different polychemotherapy regimens for early breast cancer: meta-analyses of long-term outcome among 100,000 women in 123 randomised trials.
著者名	Early Breast Cancer Trialists' Collaborative Group (EBCTCG)
雑誌名、年；巻：ページ	Lancet 379: 432-444.
目的	早期乳癌に対する異なった併用化学療法が予後に及ぼす影響を明らかにする
研究デザイン	ランダム化比較試験のシステマティックレビュー
エビデンスレベル	1a
対象患者 (疾患/病態)	
サンプルサイズ	100,000
介入	メタアナリシス
主要評価項目 (エンドポイント)	
結果	併用化学療法により早期乳癌の予後が改善する
結論	併用化学療法により早期乳癌の予後が改善する
コメント	術後補助化学療法の予後への影響を示した重要な論文である
アブストラクト・フォーム作成者	向原 徹